

東交通安全情報No.85「東警察署管内」交通事故実態(3月)

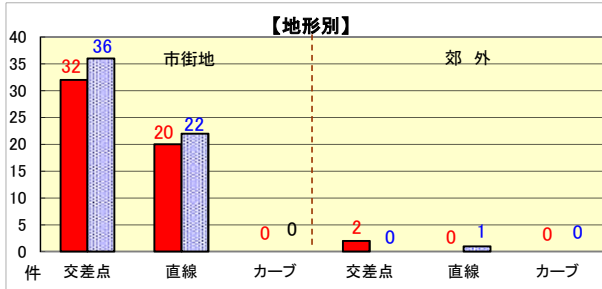
【交通事故発生状況】(令和元年～令和5年の各年3月)

区分/年別	令和元年	2年	3年	4年	5年	合計	平均
人身発生件数	54	50	54	59	54	271	54
死者数		1				2	
傷者数	60	54	58	64	62	298	60
物件事故	526	436	515	456	440	2,373	475

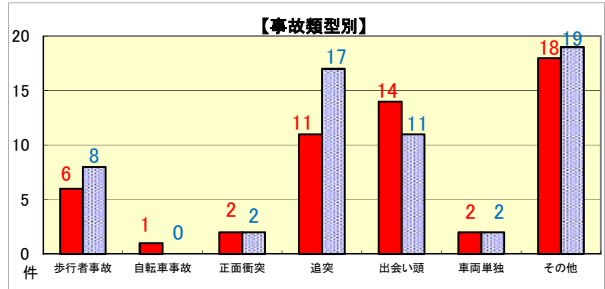
- 令和5年は、前年と比べ人身事故、傷者数、物件事故ともに減少している。
- 令和2年に交通誘導中の警備員×普通貨物自動車の交通死亡事故が発生している。

■ ~ 令和5年 ■ ~ 令和4年

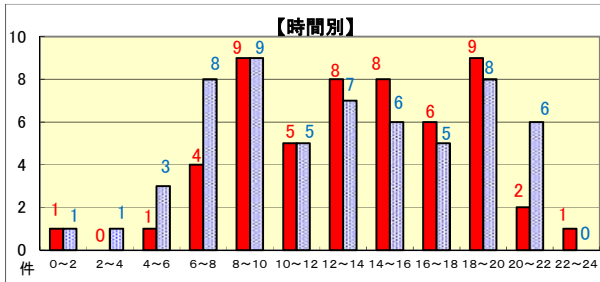
人身交通事故の主な特徴(令和5年と令和4年の3月中)



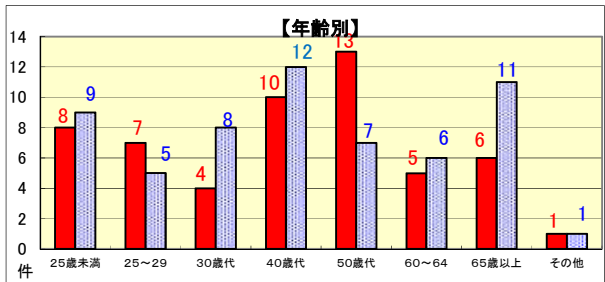
- 令和5年令和4年ともに市街地における交差点での事故が多く、令和5年の交差点事故は全体の63%である。



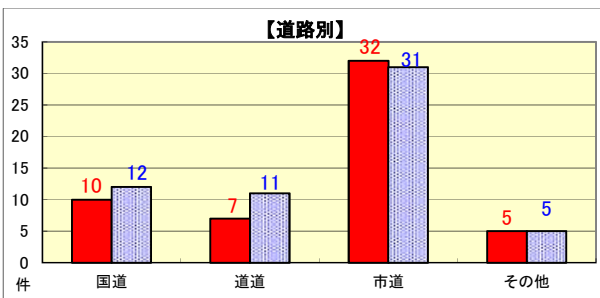
- 令和5年は令和4年と比べ、自転車事故が発生したこと、出会い頭事故のみが増加している。



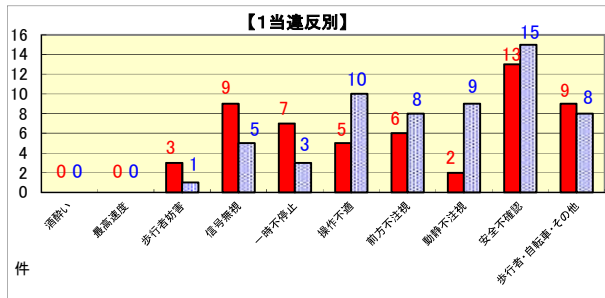
- 令和5年は令和4年と比べ、平日の8時~20時までの活動時間帯の発生が、同件もしくは増加している。



- 令和5年は、30歳代と65歳以上の発生が大きく減少しているが、50歳代の事故の増加が目立っている。



- 令和5年令和4年ともに、市道での事故が多く、市道のみが令和4年を上回る発生であり全体の約59.3%を占めている。



- 令和5年は令和4年と比べ、歩行者妨害や交差点違反からの事故の発生が増加している。



雪解け時期 アスファルトが出ていても 油断は禁物
「かもしれない運転」で危険を予測